

## 令和7年度 神戸市市民福祉調査委員会 議事要旨

日時 令和7年11月14日（金）10時00分～11時30分

場所 神戸市役所1号館14階 大会議室・オンライン

議題 1. “こうべ”の市民福祉総合計画2030の策定について

報告 1. 終活支援事業の開始について

2. 地域貢献相談窓口について

### 【主な意見】

#### 議題1. “こうべ”の市民福祉総合計画2030の策定について

##### ○委員

前段に書かれている社会情勢と、基本理念があまりリンクしていないように感じる。助け合いや多様性を社会情勢として記載したほうがストーリーとしては繋がるのではないか。

##### ◇委員長

ここ数年のことを社会情勢として記載しており、それを直接反映するような理念にはなっていない。市民の意識はまた変わるだろうし、属するグループによっても異なるため、普遍的に必要なものを理念として掲げている。

##### ○委員

広報版はこれからまた変わると思うが、文字ばかりでは見づらいので、表紙も含めて見せ方の工夫が必要だと思う。

##### ○委員

外国人の居住者や障がいのある方にとっても、子育てがしやすいまちづくりをする、というところが具体的に書かれてもいいのではないか。

##### ○委員

今回の計画の分野別計画として「障がい者プラン」があることは承知しているが、全体的に障がい者の記述をもう少し入れていただきたい。

##### ○委員

障がいに特化してしまうと包括的な考え方ではなくなってしまうので、こどもという大きな括りでボリュームをつけてもいいと思う。包括的な子育て・親育ての部分についてなど、個別の計画に盛り込むべきトピックかもしれないので、ひとつの意見としてお伝えする。

##### ○委員

5ページの「AIをはじめとした…」という部分がとても良い。AIをどのように活用していくのか、ということをアピールできる文章になると思うので、もう少しブラッシュアップしてほしい。

##### ○委員

「多様化する人権課題」の部分にダイバーシティ（多様性）の記載があるが、ダイバーシティの記載だけでいいのか。ダイバーシティに加えてエクイティ（公平性）、インクルージョン（包括性）という3点が大事だと思っているので、肉付けしてはどうか。

○委員

3つの方向性のところで、「安心を保障できる仕組みづくり」が行政が中心となって取り組む事業に直結するものが多いと思うが、これを方向性2にした意図は何か。順番としては方向性1か、方向性3のほうがリンクするように思う。

●事務局

事務局でも方向性の順番はいろいろと組み替えてきたが、最終的に今の順番に落ち着いた。震災を越えた助け合いの文化を踏まえた人づくりが一番に来て、行政として取り組むべき課題が続き、最後にすべてが連帯してまちづくりを行っていくという流れになっている。

○委員

市民もこの計画を手にとって読み、この部分は私たちにもできるなどと感じられるものになったと思う。市民が同じ方向を見て動いていかないと、今の時代まちづくりはできないと言ってくれている。説明にあったように、できるだけシンプルで分かりやすく生活に沿ったものにしていただければと思う。

○委員

方向性1に「人づくり」とあって、文章を見ると言わんとしていることは分かるのだが、直接的に人を育てたいというイメージなのか、この言葉がちょっと引っかかった。

○委員

広報版について、こども・若者に対してのアピールも大事だと思われるが、何か方法を考えているか。

●事務局

広報版の内容は未定だが、手に取った方がこういった活動をしてみようと思えるよう、例えば実際に活動している方が始めたきっかけなどを、若者からシニアまで様々な世代の声を載せたいと考えている。

◇委員長

ソーシャル・インクルージョンの脚注について、「仲良くやってみましょう」というような言い方になっているが、「社会的な排除をなくす」という内容になればと思う。

## 報告1. 終活支援事業の開始について

◇委員長

神戸以外だと名古屋や福岡がやっているようだが、神戸の取り組みの特徴はあるか。

●事務局

相談窓口として対応するのは神戸の特徴と思っている。また、終活には判断力と体力が必

要であり、早いうちに取り組んでいただくことも重要と考えているため、年齢制限を設けていない点が特徴と考えている。

○委員

神戸市でやっている取り組みと、医療・介護拠点の取り組みとは、今後どのように連携していくのか。

●事務局

必要に応じて ACP（アドバンスケアプラン）、人生会議をご案内しており、医師会とも連携を取っている。今後も情報交換しながら進めてまいりたい。

◇委員長

ほかには弁護士会からもご協力いただいていると思う。

○委員

弁護士会でも高齢者や障がい者の電話法律相談など、神戸市社協とも連携しサポートを行っている。

## 報告 2. 地域貢献相談窓口について

◇委員長

相談窓口というのは需給調整みたいなものがメインなのか、それとも市民が何かしたいというときの助成などが入るのか。

●事務局

直接助成金を支給するという形ではないが、こういったメニューがあるという紹介はしている。

◇委員長

部活の地域移行（コベカツ）の話は出なかったが、同じ部局でやっているものか。

●事務局

コベカツに関しては教育委員会が主導で行っているが、地域貢献相談窓口でも相談の内容によっては、子供たちに関わりたい、自分たちの活動をもっと知ってもらいたいという方もおられるため、これまでにコベカツを紹介したこともある。

◇委員長

ボランティアは性善説に立っているが、そうでない人もいる。マッチングの際に誰がチェックするのかという難しさもあり、今の段階から対応を考えておいた方がいいかもしれない。

○委員

地域団体の加入者が少ない中、具体的にイベントの広報を載せることができ、窓口を挟むことでトラブルの対処にもなる、ありがたい取り組み。地域活動では限られた範囲にしか声かけできないが、企業や大学など、いろいろなところに呼びかけることができる。知らなかったが、利用したい。

●事務局

自治会掲示板でのポスター掲示や SNS 広告などで周知に努めているが、届ききっていないところもあるので、ぜひ広めていただきたい。